

2020年度（2021年3月期） 第2四半期 決算説明会

2020年 10月 29日
セイコーエプソン株式会社

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新製品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

■ 事業利益について

事業利益は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しております。

連結包括利益計算書上に定義されていない指標であるものの、日本基準の営業利益とほぼ同じ概念であることから、連結財務諸表の利用者がエプソンの業績を評価する上でも有用な情報であると判断し、追加的に開示しております。

■ 本説明資料における表示方法

数値：表示単位未満を切り捨て 比率：円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

年号：断りが無い限り、会計年度を示す

- ご説明のポイント
- 第2期四半期実績
- 2020年度通期業績予想
- 株主還元
- ESGトピックス

第2四半期 実績

- 売上収益：2,459億円 （対前年同期 205億円減収）
 - COVID-19影響により、前年同期からは減収となるものの、第1四半期からは、販売回復
 - 主要事業・商品で予想以上に需要回復
- 事業利益：102億円 （対前年同期 43億円減益）
 - 減収影響を受ける中、引き続き費用抑制を継続
 - 予想を上回る販売に加え、商品ミックス変動・価格維持、一層の費用抑制を実施

通期業績 予想

- 売上収益：9,600億円
（対前期 836億円減収 対前回予想300億円上方修正）
 - 売上収益は、第2四半期での想定以上の販売回復を反映
 - 下期は、引き続き不透明な要因多く、前年同期並みを見込む
- 事業利益：350億円
（対前期 58億円減益 対前回予想150億円上方修正）

株主還元

- 配当予想：1株当たり62円
（2019年度と同額予想に変更なし）

- 本日のご説明のポイントはご覧のとおりです。
- 詳細は、次のスライド以降でご説明します。

- ご説明のポイント
- **第2期四半期実績**
- 2020年度通期業績予想
- 株主還元
- ESGトピックス

2020年度 第2四半期決算 | ハイライト

EPSON
EXCEED YOUR VISION

	2019年度		2020年度		対前年同期		
	(億円)	Q2実績	%	Q2実績	%	増減額	増減率
売上収益		2,664		2,459		-205	-7.7%
事業利益		146	5.5%	102	4.2%	-43	-29.7%
営業利益		159	6.0%	72	2.9%	-86	-54.5%
税引前利益		162	6.1%	58	2.4%	-104	-64.2%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益		120	4.5%	44	1.8%	-75	-62.7%
EPS* ¹ (円)		34.63		12.95			
為替レート (円、指数)	USD	¥107.31		¥106.16			
	EUR	¥119.34		¥124.10			
	その他通貨* ²	100		93			
		前年同期に対する 為替影響額 (億円)		USD	EUR	その他 通貨合計	合計
		売上収益		-8	+15	-31	-24
		事業利益		+0	+9	-23	-12

*¹ EPS: 基本的1株当たり当期利益
*² その他通貨の各レートを為替ポリュームに応じて加重平均した値について、前年同期を100とした指数

5

- それでは、第2四半期実績のご説明に入ります。
- 売上収益は、前年同期に対して 205億円 減収の 2,459億円、事業利益は、43億円 減益の 102億円 となりました。
- また、前年同期に為替差益を計上していた その他営業収益費用、金融収益費用は、今四半期は為替差損を計上しています。
- その結果、四半期利益は、75億円 減益の 44億円 となりました。
- 為替レートは、ユーロは前年同期に対して円安で推移しましたが、USDドルや中南米通貨などで円高となったことで、業績にはマイナスの影響が発生しました。

■ 対前年同期

● 売上収益

- COVID-19影響が残るものの、第1四半期からは販売回復
 - ✓ 供給不足の中、商品モデルミックスの改善進展・価格維持

● 事業利益

- 減収影響や在庫減少に伴う利益押し下げ影響を受ける中、引き続き費用抑制を継続

■ 対前回予想

● 主要事業・商品で予想に対して需要増加

- 大容量インクタンクモデル・インクカートリッジモデル本体、インクカートリッジ、商業・産業IJP、プロジェクター、ロボットなど

● 一層の費用抑制なども実施

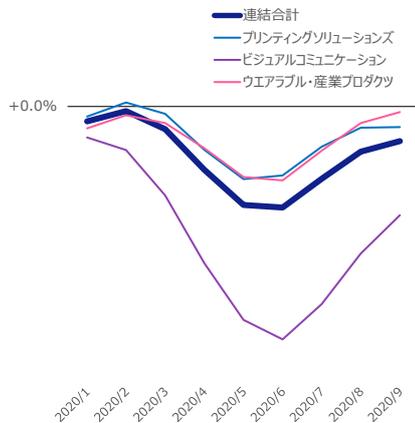
6

- 第2四半期決算のポイントです。
- 主要商品の市場環境は、依然として新型コロナウイルス影響が残るものの、経済活動の再開が段階的に進み、第1四半期からは需要回復が進みました。
- エプソンの売上収益は、一部商品に供給不足が継続していますが、販売が回復すると同時に、商品モデルミックスの改善が進展し、また、価格維持施策などにも取り組みました。
- 事業利益は、減収影響に加え、在庫減少に伴う事業利益押し下げ影響を受ける中、引き続き徹底した費用の抑制を継続しました。
- 前回予想の前提に対しては、大容量インクタンクモデル、インクカートリッジモデル本体、インクカートリッジ、商業・産業IJP、プロジェクター、ロボットなど、それぞれ、地域や用途は異なりますが、想定以上の需要がありました。
- これらにより、売上収益が予想を上回ったことに加え、一層の費用抑制なども実施したことで、売上収益・事業利益ともに予想を大幅に上回りました。

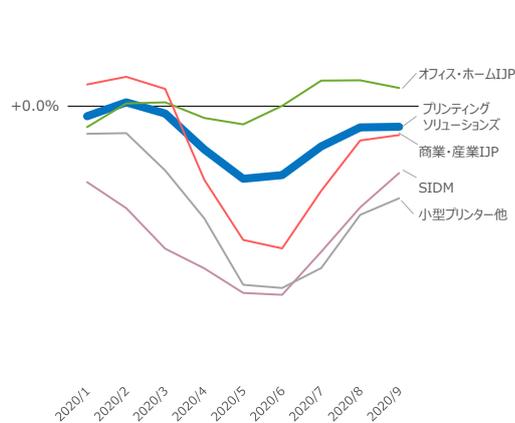
■ COVID-19影響は残るものの、第1四半期からは販売回復

- インクジェットプリンター本体は供給不足影響が残るが、落ち込みが大きかったBtoB商品の需要も急ピッチで回復

売上収益推移 (3か月移動平均、前年同期比)
：事業セグメント別



売上収益推移 (3か月移動平均、前年同期比)
：プリンティングソリューションズ商品別



- ここで、これまでの販売動向をご説明します。
- グラフは、エプソンの月別売上収益を3か月移動平均して、前年同期と比較し、傾向を表したものです。
- 左のグラフは、連結合計、および、事業セグメント別の推移です。
- 新型コロナウイルスの感染拡大に同期し、3月から4月にかけて急速に悪化したものが、一部商品の供給不足がある中でも、6月には回復に転じ、以降も回復に向かっていくことが確認できます。
- 状況を慎重に見守る必要があるものの、回復が遅れると想定していたロボットなどのようなBtoB領域においても、前年同期の販売を超える商品も見られるようになってきました。
- 右のグラフは、プリンティングソリューションズを、主要商品に分けて表示したものです。
- まず、オフィス・ホームIJPをご覧ください。
- 4月度には前年同期から落ち込んだものの、その後は、前年同期を超える水準が継続しています。
- インク販売は、第2四半期に入って落ち着きを見せてはいますが、先進国を中心に在宅需要が増加しています。
- 本体は、生産制約による供給不足が続いていることで、全ての需要にお応えするには至っていませんが、第2四半期に入るとエマージング地域でも回復が進んでいます。
- 商業・産業IJPは、第1四半期には、大きく販売が落ち込みましたが、世界各地での活動再開に合わせ、急ピッチで販売回復が進んでいます。

■ 生産制約により、供給不足が継続

- 第1四半期の工場停止に続き、9月後半にインドネシアで臨時休業（2週間）
- 稼働回復後も輸送のリードタイムにより一部で供給不足が継続

主要工場の生産品目・稼働状況

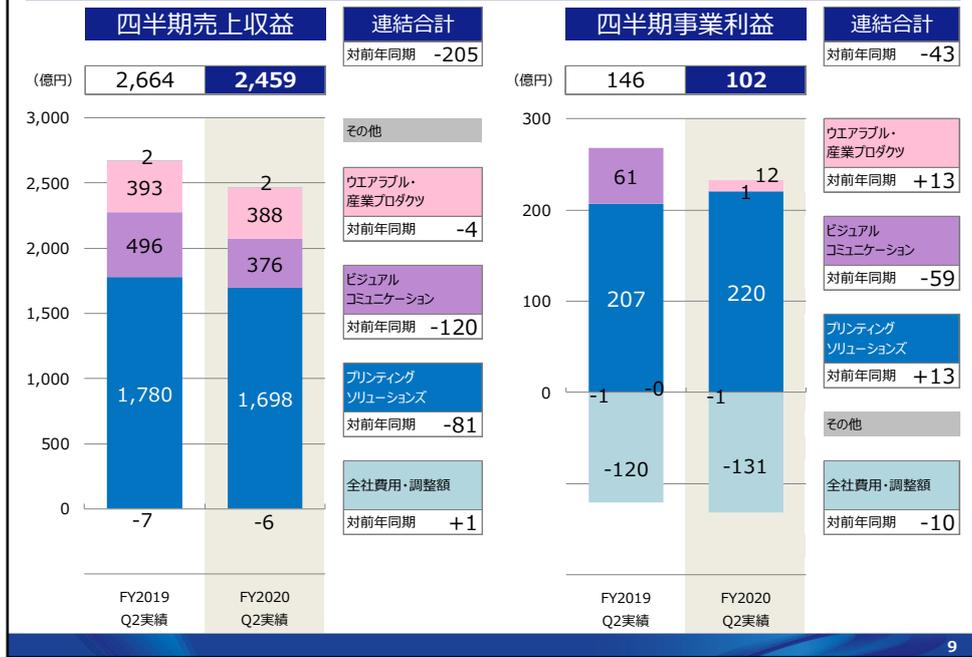
工場所在地	主要生産品目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
中国	大判プリンター、プロジェクター、SIDM、ロボット など	通常生産	停止	稼働制約	対応を図りながら概ね計画通り稼働								
フィリピン	大容量インクタンクモデル、SOHO・ホーム向け IJP 本体、プロジェクター、小型プリンターなど	稼働状況の推移を示すグラフ											
インドネシア	大容量インクタンクモデル、SOHO・ホーム向け IJP 本体、オフィス共有 IJP 本体、SIDM、大判プリンター、スキャナー など	稼働状況の推移を示すグラフ											
マレーシア	水晶デバイス、ウオッチ部品 など	稼働状況の推移を示すグラフ											
日本・中国・インドネシア・米国・英国	インクカートリッジ、インクボトル	稼働状況の推移を示すグラフ											

■ COVID-19影響（需要停滞、供給不足）

- 第2四半期の売上収益に対しては、約270億円のマイナス影響

- 販売動向に続き、生産動向をご説明します。
- こちらは、2020年に入ってからの各工場での生産状況を示したものです。
- 現在は、概ね計画通りの稼働状況ですが、これまでに、新型コロナウイルスの影響により生産制約が発生しました。
- 昨年度末には、中国・フィリピン・インドネシア・マレーシアで臨時休業を余儀なくされました。
- さらに、インクジェットプリンターやスキャナなどの生産拠点であるインドネシアでは、9月後半に約2週間の臨時休業となるなど、予断を許さない状況が継続しています。
- これにより、プリンター事業の商品を中心に、今後も、供給不足が継続する見込みです。
- 前回予想を上回るペースで需要が回復していますので、新型コロナウイルス感染防止には最大限の対応を図りながら、生産挽回に向けて取り組んでいきます。
- 以上ご説明した通り、新型コロナウイルス感染症は、引き続き、広範囲に影響を及ぼしており、第2四半期の売上収益には、約270億円程度のマイナス影響があったと試算しています。

2020年度 第2四半期実績 | 事業セグメント別



- こちらは、事業セグメント別の前年同期比較です。
- 以降のスライドで、セグメント別にご説明します。

2020年度 第2四半期実績 | プリンティングソリューションズ EPSON EXCEED YOUR VISION

(億円)

プリンティングソリューションズ	2019年度 Q2実績	2020年度 Q2実績	対 前年同期	為替 影響額	
売上収益	1,780	1,698	-81	-23	
プリンター	1,199	1,221	+22		
構成比 オフィス・ホームIJP	83%	85%			
SIDM	8%	6%			
その他	9%	9%			
プロフェッショナルプリンティング	498	440	-57		
構成比 商業・産業IJP	63%	67%			
小型プリンター他	37%	33%			
その他	83	36	-46		
事業間売上収益	-0	-0	+0		
セグメント利益	207	220	+13	-12	
セグメント利益率	11.6%	13.0%			
◆ オフィス・ホームIJP販売動向 (社内管理値に基づく指標)					
		FY19/Q2 実績	FY20/Q2 実績		
本体	売上収益 YoY伸長率	円貨 +0%	+2%		
	現地通貨	+5%	+5%		
	販売数量 YoY伸長率	+6%	-9%		
インク	売上収益 YoY伸長率	円貨 -6%	+7%		
	現地通貨	-2%	+8%		
	オフィス共有IJP ¹⁾ 売上収益 オフィス・ホームIJP内比率 ²⁾	10%	10%		

プリンター事業

- ◆ オフィス・ホームIJP
 - ・大容量インクタンクモデルは、本体販売台数は前年並みも増収インクボトルも増加
 - ・SOHO・ホーム向けは、I/Cモデル本体が供給不足により減少となるが、欧米でインク販売増加
 - ・オフィス共有IJPは前年同期並み
- ◆ SIDM
 - ・中国中心に販売減少

プロフェッショナルプリンティング事業

- ◆ 商業・産業IJP
 - ・完成品ビジネスは、案件獲得進み前年同期並み
 - ・プリントヘッド外販ビジネスは、中国向け新規採用が進むが、既存顧客向け中心に販売減少
- ◆ 小型プリンター
 - ・各地で販売が減少

その他

- ・OS切り替えに伴うPC増加があった前年同期からは販売減少

*1 オフィス共有IJP：高プリントボリュームオフィス向けプリンターI/Cモデル、RIPS、LIIの本体・インク、スマートチャージなどの課金や有償サービスを含む
*2 FY20の商品区分変更に伴い、FY19を遡及修正

10

- プリンティングソリューションズの実績はご覧のとおりです。
- プリンター事業は、SIDMが減収となりましたが、インクジェットプリンターが増収となったことで、事業全体で増収となりました。
- 大容量インクタンクモデルは、地域によって濃淡はあるものの、想定以上の需要回復を見せている地域もあり、供給不足影響を受けながらも前年同期並みの本体販売台数となりました。
- 加えて、価格維持に取り組んだことや、モデルミックス、地域ミックスの改善も進み増収となりました
- SOHO・ホーム向けインクカートリッジモデル本体は、減収となりました。
- 一方で、インクカートリッジは増収となりました。
- 在宅需要は、日本では落ち着きが見られましたが、欧米などでは高い水準が継続しています。
- オフィス共有IJPは、市場回復が遅れる中、日本での文教向け案件獲得などにより、前年同期並みとなりました。
- プロフェッショナルプリンティングは、減収となりました。
- 商業・産業IJPのエプソン完成品ビジネスでは、ドラッグストアでのポスター・POP印刷用の大口案件獲得に加え、コーポレート・CAD向けモデルや昇華転写プリンターは、新商品効果やマスクなどへの印刷需要もあり、本体販売が好調に推移し、前年同期並みの売上収益となりました。
- プrintヘッド外販ビジネスは、中国メーカーにおける新規採用は順調に拡大していますが、日本などの既存顧客向け販売が停滞していることから減収となりました。
- 小型プリンターは、新型コロナ影響による需要停滞があったことで減収となりました。
- セグメント利益は、減収影響やプロフェッショナルプリンティングを中心とした在庫減少に伴う利益押し下げ影響はありましたが、プリンター事業でのインクの増収影響などに加え、費用抑制に努めたことで、増益となりました。
- なお、セグメント利益は、プリンター事業が8割弱を占めることとなりました。

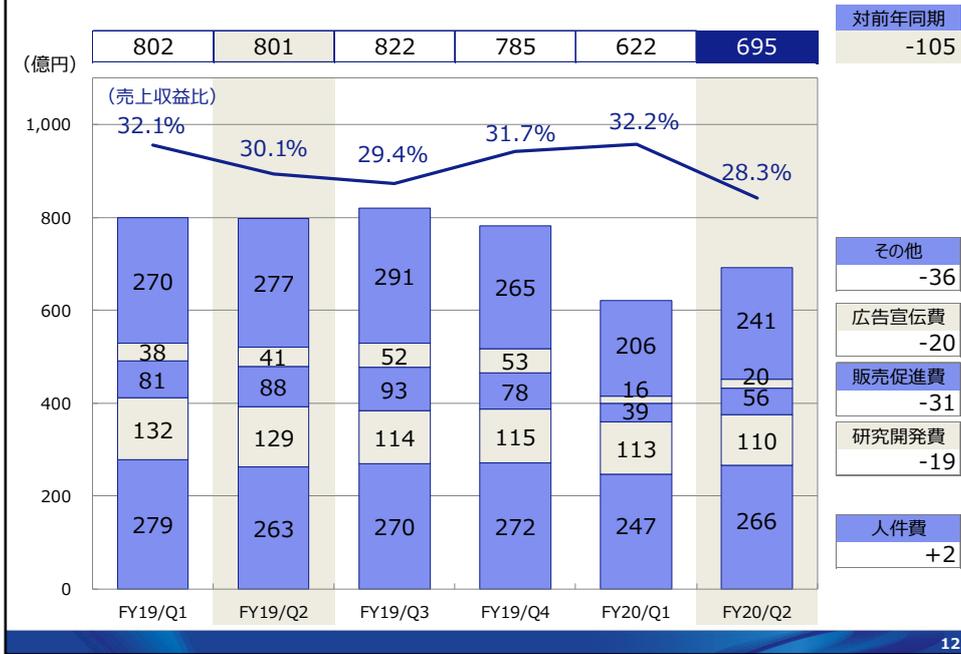
		2019年度		2020年度			
		Q2実績		Q2実績		対	為替
						前年	影響
						同期	額
(億円)							
ビジュアルコミュニケーション							
売上収益		496		376		-120	+0
セグメント利益		61		1		-59	+0
セグメント利益率		12.3%		0.5%			
◆ プロジェクターの販売動向 (社内管理値に基づく指標)		FY19/Q2 実績		FY20/Q2 実績			
	円貨	-8%		-24%			
本体	売上収益 YoY伸長率		現地通貨	-3%			
				-24%			
	販売数量 YoY伸長率			-9%			
				-32%			
(億円)							
ウェアラブル・産業プロダクツ							
売上収益		393		388		-4	-1
ウェアラブル機器		117		76		-40	
ロボティクスソリューションズ		51		77		+25	
マイクロデバイス他		239		237		-1	
事業間売上収益		-14		-3		+10	
セグメント利益		-0		12		+13	-0
セグメント利益率		-0.0%		3.3%			
ウェアラブル機器 ◆ 市況停滞により販売減少 ロボティクスソリューションズ ◆ 中国・米州などで販売増加 マイクロデバイス他 ◆ 水晶デバイス モバイル機器・車載向けは減少も 通信機器・医療機器増加で増収 ◆ 半導体 ファンドリで販売堅調 ◆ その他 金属表面処理が減少							

11

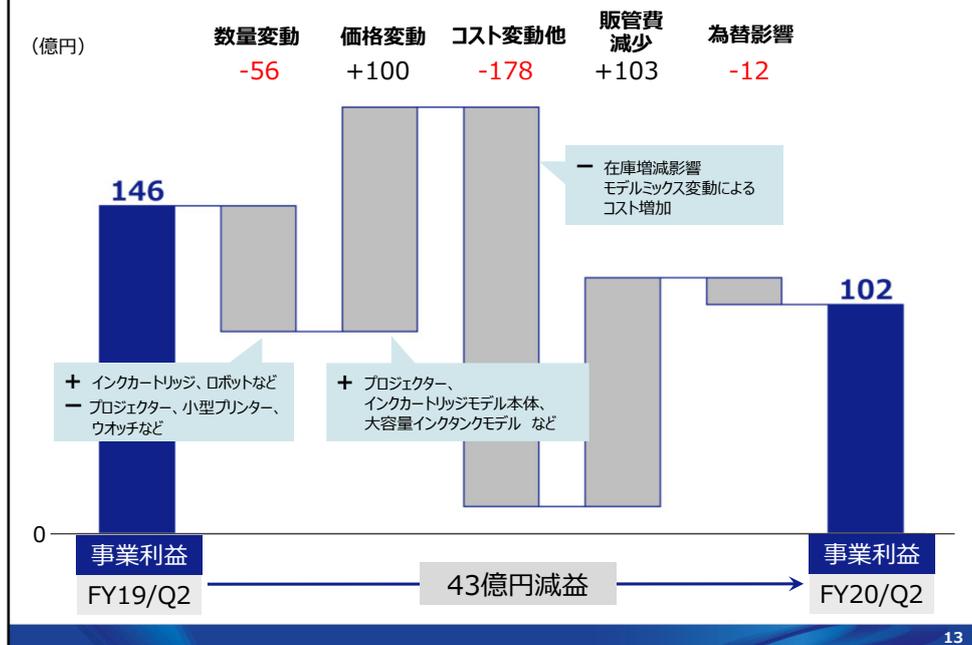
- ビジュアルコミュニケーションは、第1四半期からは回復していますが、依然として厳しい環境が継続しました。
- プロジェクターは、ホームプロジェクターの増加や、欧米などで学校の再開に伴う回復の動きが見られましたが、本格回復までには至らず、オフィス向けを中心に販売が減少しました。
- セグメント利益も、費用の削減を進めていますが、減収影響により、減益となりました。
- ウェアラブル・産業プロダクツは、事業により状況が異りました。
- ウェアラブル機器は、ウオッチ市場の停滞が継続しており、国内向けウオッチを中心に、海外向けウオッチやムーブメントでも販売が減少しました。
- ロボティクスソリューションズは、中国の電子機器、バッテリー、ソーラーパネル組立向け、米国のハードディスクドライブ組立や医療関連向けの案件獲得などにより、増収となりました。
- マイクロデバイス他は、モバイル機器向けや自動車関連向けは減少したものの、ネットワーク関連向けや、PC、ヘルスケア向けが増加するなど、水晶デバイスを中心に堅調な販売が継続しました。
- セグメント利益は、ウェアラブル機器は減益となりましたが、ロボティクスソリューションズの増収影響に加え、マイクロデバイス他でのプロダクトミックスの改善などもあり、セグメント全体で増益となりました。

販売費および一般管理費 主要科目別推移

EPSON
EXCEED YOUR VISION

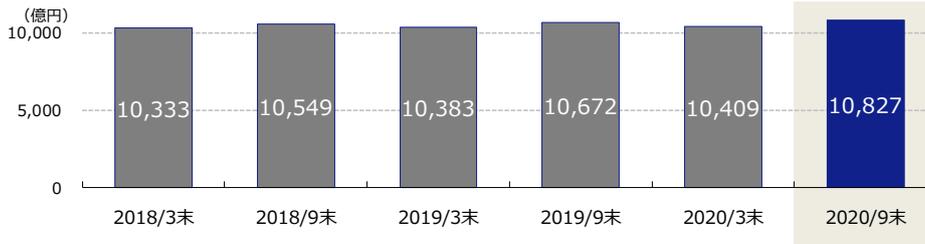


- 販売費及び一般管理費の四半期推移は、ご覧のとおりです。
- 第2四半期も、継続的に費用抑制を実施し、販売促進費や広告宣伝費などを中心に、前年同期に対し、大きく減少させました。
- 第2四半期累計実績においても、補足資料にある通り、700億円を超える減収となりながらも、前年同期に近い水準の事業利益を残すことができているのも、販管費をはじめとしたあらゆる費用の執行に、メリハリをつけて取り組んだ結果が大きいと認識しています。
- 今後は、活動再開に合わせて費用執行の水準は上がっていきませんが、予断を許さない状況が続きますので、引き続き、環境変化に対応した執行を実施していきます。

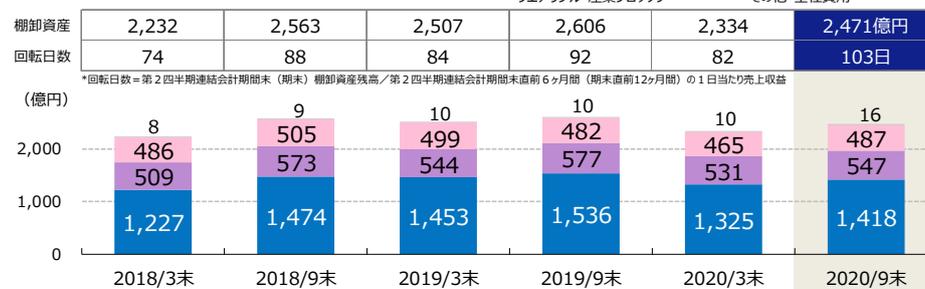


- 事業利益の増減要因分析はご覧の通りです。
- 数量変動は、インクカートリッジ、ロボットなどでプラスとなりましたが、プロジェクター、小型プリンター、ウオッチなどのマイナスが上回りました。
- 価格変動は、インクカートリッジモデル本体、大容量インクタンクモデルなどで、供給不足が継続する中、採算性を考慮した商品のアロケーションや価格維持に取り組んだことやプロジェクターのミックス変動影響などにより、プラスとなりました。
- コスト変動他は、在庫増減影響、および、モデルミックス変動によるコスト増加などにより、マイナスとなりました。

資産合計

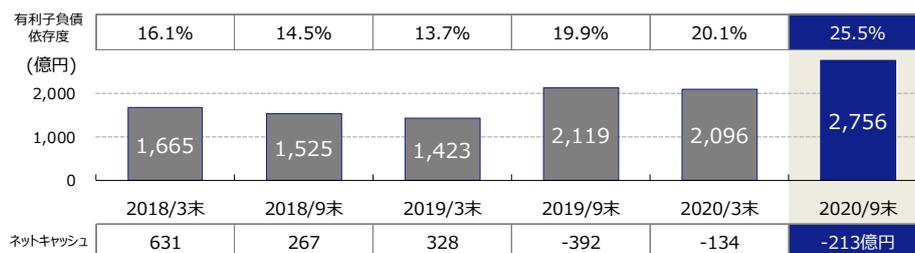


棚卸資産・回転日数

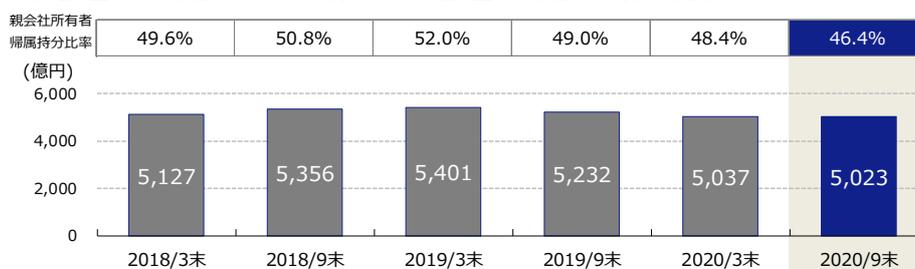


- 続きまして、財政状態計算書の主要項目について、ご説明します。
- 資産合計は、前年度末に対して418億円増加し、1兆827億円となりました。
- これは主に、売上債権及びその他の債権が減少した一方で、現金及び現金同等物がグリーンボンド発行などによる増加があったことなどが要因です。
- 棚卸資産は、2,471億円となりました。
- 回転日数は、103日となりました。
- これは、上期のプロジェクターやウオッチの販売が大きく落ち込んだことや、一部のプリンターで、回復する需要に対して供給不足となったことなどにより、売上収益が減少した結果です。
- 在庫水準は、年度末に向けて適正化を図っていきます。
- 下期は前年同期並みの販売を見込んでおり、例年であれば、下期に向けての作りこみを進める時期ですが、今期は、6月末時点からも在庫は減少しており、プリンターを中心に生産の挽回を進めていきます。

有利子負債・有利子負債依存度、ネットキャッシュ



親会社の所有者に帰属する持分・親会社所有者帰属持分比率



- 有利子負債は、グリーンボンド発行などにより、前年度末に対して、659億円増加し、2,756億円となりました。
- 親会社の所有者に帰属する持分合計は、前連結会計年度末に対して13億円減少し5,023億円となりました。
- なお、手元流動性は、引き続き高い水準を保っています。

- ご説明のポイント
- 第2期四半期実績
- **2020年度通期業績予想**
- 株主還元
- ESGトピックス

2020年度 通期業績予想 ハイライト										EPSON EXCEED YOUR VISION	
	2019年度			2020年度				増減額/増減比			
	(億円)	実績	%	7/31予想	%	今回予想	%	対前期	対7/31予想		
売上収益		10,436		9,300		9,600		-836 -8.0%	+300 +3.2%		
事業利益		408	3.9%	200	2.2%	350	3.6%	-58 -14.3%	+150 +75.0%		
営業利益		394	3.8%	160	1.7%	280	2.9%	-114 -29.1%	+120 +75.0%		
税引前利益		397	3.8%	140	1.5%	240	2.5%	-157 -39.6%	+100 +71.4%		
親会社の所有者に帰属する 当期利益		77	0.7%	10	0.1%	80	0.8%	+2 +3.4%	+70 +700.0%		
EPS*1 (円)		22.26		2.89		23.12					
為替レート (円、指数)	USD	¥108.74		¥106.00		¥106.00					
	EUR	¥120.85		¥118.00		¥122.00					
	その他通貨*2	100		90		92					
第3四半期以降の 為替前提(円)	USD	105.00		為替感応度(億円)*3	USD	EUR	その他通貨 合計	年間為替 影響額見込み			
	EUR	122.00			売上収益	△27	△13	△27	△240		
				事業利益	+7	△8	△12	△70			

*1 EPS：基本的1株当たり当期利益
*2 その他通貨の各レートを為替ボリュームに応じて加重平均した値について、前期を100とした指数
*3 USD/EURは1円の円高による年間影響額（億円）、その他通貨は1%の円高による年間影響額（億円）

17

- 続きまして、通期業績予想のご説明をします。
- 通期業績予想は、第2四半期の実績が予想を上回ったことを反映し、前回予想から、売上収益は 300億円、事業利益は 150億円 上方修正しました。
- 今後は、需要の回復が見込まれるものの、新型コロナウイルス影響の収束時期を見通すことは困難であり、また、エプソンにおいても供給制約が継続するなど、引き続き予断を許さない状況であることから、下期の業績は、前回予想と大きな変化を見込まず、前年同期並みの予想としています。
- その結果、通期業績予想は、
 - 売上収益は、 9,600億円、
 - 事業利益は、 350億円、
 - 当期利益は、 80億円 となります。
- 為替による影響は、前年度に対して、売上収益で約240億円、事業利益で約70億円のマイナス影響を予想しています。

■ 欧米、中国を中心に経済活動の再開が進み、需要は回復

【各国の行動規制の前提】

	9月	10~12月	1~3月
日本	自粛		
北米	自粛	自粛	規制解除
西欧・豪州	規制解除		
中国	規制解除		
中南米、東欧、アフリカ、 東南アジア・南アジア	自粛	自粛	規制解除

■ 生産の挽回に取り組むものの、供給不足は継続

■ COVID-19による影響は、売上収益で1,300億円程度のマイナス

18

- 今期の業績予想の前提となる、各国・地域における行動規制の動向はスライドのとおりです。
- 下期以降、行動規制は解除に向かっていきますが、前回予想時と比べて、日本および中南米では規制解除に遅れが予想される一方で、北米では想定よりも早く、規制解除に向かう前提としていますが、状況の変化には注視を続けていきます。
- そうした前提のもと、下期の予想は、事業ごと、地域ごとに見直しを実施しましたが、全体としては前回予想から大きな変化を見込まず、概ね前年同期並みの予想としています。
- プリンター事業の商品を中心に、下期以降も供給不足が継続すると見込んでいますが、従業員の安全を最優先に感染予防を徹底しつつ、生産の挽回を進めていきます。
- なお、これらの前提にもとづき試算したところ、新型コロナウイルス影響は、売上収益で、1,300億円程度のマイナス影響を受けるものと見込んでいます。
- さらに、先日、発生した、旭化成マイクロシステム延岡事業所での火災影響は、現在、状況を把握中ですが、直ちに生産が滞るような事態は想定していません。
- 状況が明らかになった時点で、必要であれば改めてご説明します。

■ COVID-19への対応

- 在宅需要など、オポチュニティーの確実な取り込み
- 生産挽回に向けた対応
- 販管費など徹底した費用抑制を継続・強化

■ 安定的に利益を創出する体質づくり（継続実施）

- 強化領域へ経営資源を最適配分
 - 強化領域：オフィス共有IJP、商業・産業IJP（完成品ビジネス、プリントヘッド外販ビジネス）、高光束プロジェクター、ロボット
 - 市場縮小に対応する領域：プロジェクター、ウォッチ

■ New Normalを踏まえた戦略・施策の再確認

- 社会課題の変化を捉え、その解決に向けた議論が進展

- 2020年度の取り組みをご説明します。
- 足元では、新型コロナウイルス拡大により社会活動・生活様式が大きく変化しています。
- こうした中で、在宅勤務、在宅学習といった新たな需要も発生しており、これらのオポチュニティーを確実に取り込みます。
- 供給不足が売上拡大への課題となっていますので、解消に向け、生産の挽回に優先的に取り組んでいきます。
- 加えて、上期は、販管費などの費用抑制を徹底して行ってきましたが、下期もこれを継続・強化していきます。

- 中長期にわたり安定的に利益を創出する体質づくりも進めていきます。
- 以前からもご説明しているとおり、経営資源は、強化領域へと最適配分していきます。
- さらに、市場が縮小しているプロジェクター、ウォッチにおいては、採算改善に向けた費用削減に加えて、要員を強化領域へと転換する施策も進めています。

- また、新型コロナウイルスの影響により、社会課題にも変化が生じています。
- New Normalを踏まえた社会課題解決に向けた戦略・施策の議論が進展しています。

オフィス・ホームIJP/商業・産業IJP

前提

- 在宅印刷需要は下期に落ち着くが、一定程度継続
- 大容量インクタンクモデルのエマージング地域での需要は、想定よりも早く回復
- 商業・産業IJPは、経済活動再開により需要増加



大容量インクタンクモデル



レジンインク搭載 大判プリンター

取り組み

- 供給制約の中、需要に最大限対応
- 在宅印刷での困りごとを解決する商品・サービスを創出
- 商業・産業IJPの完成品ビジネスは、分散印刷の実現に向け、大判プリンターに加え、色の品質管理、生産管理、保守管理をトータルでサポートするソリューションを強化
- プリントヘッド外販は、中国での直接販売拡大に向けた活動を継続

Epson Cloud Solution
PORT
業務効率化ソリューション

プリントヘッド

20

- 続いては、各事業ごとの需要動向の前提と主な取り組みをご説明します。
- 初めはプリンティングソリューションズです。
- 上期に先進国を中心に見られた在宅勤務・在宅学習による印刷需要は、下期には、行動規制の解除に伴って落ち着くものの、欧米などでは一定程度継続します。加えて、一部のエマージング地域においても、在宅印刷需要が新たに発生しています。
- 大容量インクタンクモデルは、エマージング地域での行動規制が継続する中でも販売店の再開が進んでおり、想定よりも早く需要回復に向かう前提です。
- 商業・産業IJPは、経済活動が再開することで、下期は、前年度同期程度まで需要が回復することが見込まれます。
- このような前提に対して、供給制約が継続する中、戦略商品の外部委託生産の増強や、生産の複数拠点への分散といった増産対応を行うとともに、国・地域ごとの需要動向を見極め、供給先のコントロールを通じて、需要に最大限対応していきます。
- また、新たな生活様式の一つとして、在宅勤務などによる印刷の分散化が見込まれます。
- 印刷コストが低く、消耗品の交換回数が少ないという特長を生かし、在宅印刷においても大容量インクタンクモデルを拡大できると考えています。
- さらに、自宅で業務上の印刷を行う上で、さまざまな困りごとが顕在化していますが、こうした困りごとを解決するサービスを創出することで、今後も拡大が見込まれる在宅印刷需要を確実に取り込んでいきます。
- 商業・産業IJPは、多様なお客様ニーズに応えるラインアップの拡充に向けて、6月の戦略説明会でも発表したとおり、今後も、プラットフォームを活用した新商品投入を進めていきます。
- 加えて、色の品質管理・生産管理・保守管理などをトータルで提供するサービスを拡充するとともに、対象機種を拡大することで、分散印刷をサポートしていきます。
- プリントヘッド外販ビジネスも、需要拡大が見込まれる中国での案件を確実に獲得していきます。

ビジュアルコミュニケーション

ウェアラブル機器

前提

- プロジェクター、ウォッチ市場の縮小

取り組み

- 総原価低減、固定費削減、要員構造の適正化



ホームプロジェクター

高光束
ビジネスプロジェクターSWING GENERATOR
搭載ウォッチ

ロボティクスソリューションズ

マイクロデバイス他

前提

- ロボットやマイクロデバイスの市場は安定的に推移

取り組み

- ロボティクスソリューションズは、経営資源の投下を継続し、省人化・自動化の加速を捉える
- マイクロデバイス他は、堅調な領域での需要を確実に取り込む



スカロボット



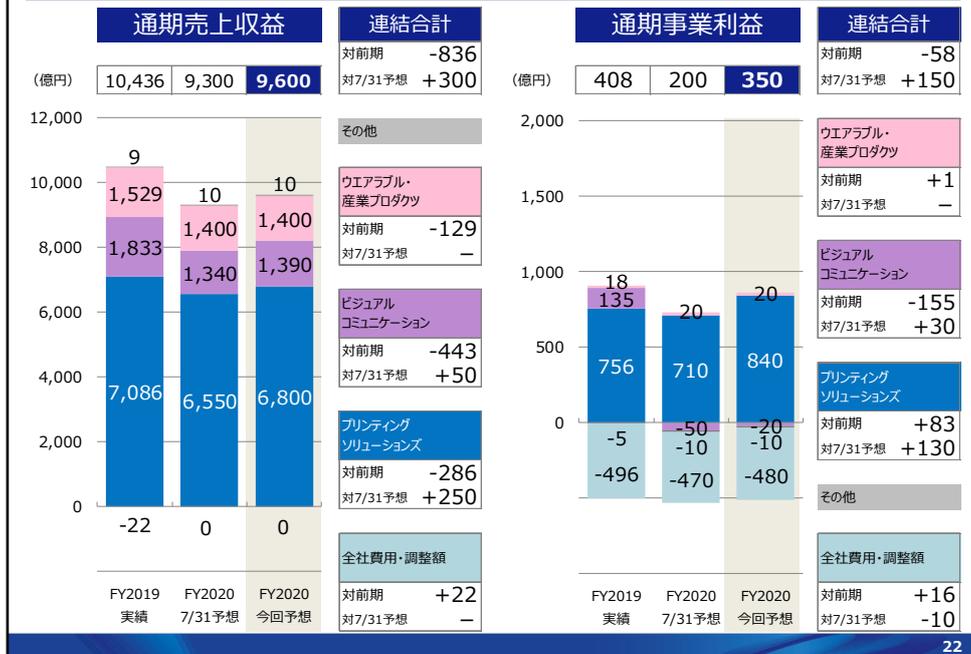
水晶デバイス

21

- プロジェクター市場は、第2四半期は、想定以上の需要であったものの、下期には、エマージング地域の市場回復が遅れる前提です。
- また、ウォッチ市場は、引き続き厳しい環境が継続します。
- このように厳しい事業環境において、先ほどご説明したとおり、総原価低減、固定費削減を徹底し、また、要員構造の適正化を進めていきます。
- そのうえで、プロジェクターでは、足元で発生している在宅需要を確実に取り込むとともに、大画面、立体物への投写、持ち運びのしやすさといったプロジェクター独自の価値を生かせる市場に、経営資源を集中させます。
- ウォッチでは、スイングジェネレーターなどの独創の技術を使った商品を投入し、利益創出可能な事業へと変えていきます。
- ロボットやマイクロデバイスの市場は、新型コロナウイルス影響がある中でも、安定的な推移を前提としています。
- ロボティクスソリューションズは、経営資源の投下を継続し、省人化・自動化の加速を捉え、さらなる事業拡大を目指していきます。
- マイクロデバイス他は、ヘルスケア、ネットワーク向けなど、堅調な領域での需要を確実に取り込みつつ、生産性向上による利益創出活動を継続していきます。

2020年度 通期業績予想 | 事業セグメント別

EPSON
EXCEED YOUR VISION



22

- 先ほどご説明した前提にもとづく、売上収益、事業利益のセグメント別内訳です。
- 以降のスライドで、セグメント別にご説明します。

					(億円)	
プリンティングソリューションズ	2019年度 実績	2020年度 7/31予想	2020年度 今回予想	対前期	対 7/31予想	
売上収益	7,086	6,550	6,800	-286	+250	
プリンター	4,825	4,680	4,850	+24	+170	
構成比 オフィス・ホームIJP	84%	86%	87%			
SIDM	7%	5%	5%			
その他	9%	9%	8%			
プロフェッショナルプリンティング	1,979	1,680	1,780	-199	+100	
構成比 商業・産業IJP	64%	67%	69%			
小型プリンター他	36%	33%	31%			
その他	282	190	170	-112	-20	
事業間売上収益	-1	0	0	+1	-	
セグメント利益	756	710	840	+83	+130	
セグメント利益率	10.7%	10.8%	12.4%			
◆ オフィス・ホームIJP販売動向 (社内管理値に基づく指標)						
			FY19 実績	FY20 7/31予想	FY20 今回予想	
YoY伸長率			+1%	-6%	-4%	
約、万台			1,570	1,470	1,500	
本体	販売数量	内 大容量インクタンクモデル	1,000	960	1,000	
		内 SOHO・ホーム向けI/Cモデル	530	480	470	
		内 オフィス共有IJP	40	30	30	
		円貨	-8%	-0%	+2%	
インク	売上収益	現地通貨	-5%	-	-	
オフィス共有IJP	売上収益	オフィス・ホームIJP内比率 ^{*2}	10%	11%	10%	

プリンター事業

- ◆ オフィス・ホームIJP
 - ・SOHO・ホーム向けは、本体は減収となるが、先進国中心にインク販売が増加し、前年度並み
 - ・大容量インクタンクモデルは、前年同期並み台数販売を見込むが、ミックス改善により増収
 - ・オフィス共有IJPは、厳しい市場環境の中、着実に販売拡大
- ◆ SIDM
 - ・中国中心に販売減少

プロフェッショナルプリンティング

- ◆ 商業・産業IJP
 - ・完成品ビジネスは、下期に前年度並み販売を見込む
 - ・ヘッド外販ビジネスは、新規顧客の増加の一方で、既存顧客向けで減少し、前年度並み
- ◆ 小型プリンター
 - ・先進国中心に需要減少

その他

- ◆ PC販売特需が収束

*1 オフィス共有IJP：高プリントボリュームオフィス向けプリンターI/Cモデル、RIPS、IJPの本体・インク、スマートチャージなどの課金や有償サービスを含む

*2 FY20の商品区分変更に伴い、FY19を適及修正

- プリンティングソリューションズの各事業・商品の通期業績予想はご覧の通りです。
- 売上収益、事業利益とも通期予想は、第2四半期の状況を反映して上方修正しますが、下期は、予想を大きく変更せず、前年同期並みの水準となる予想です。
- プリンター事業は、SIDMなどでは下期も減収を見込みますが、インクジェットプリンターは、前年同期を上回る売上収益を予想します。
- SOHO・ホーム向けインクカートリッジモデル本体は減収を見込みます。
- また、インクの売上収益は、第2四半期は在宅需要による増加も見られましたが、下期は減収を見込んでいます。
- 大容量インクタンクモデルは、下期には前年同期を上回る販売を予想しており、2020年度通期では、前回予想で約960万台であったものを、約1,000万台へと修正します。
- オフィス共有IJPは、厳しい環境下ではありますが、着実な販売増加を見込んでいます。
- プロフェッショナルプリンティングも、商品や地域により濃淡はありますが、下期は前年同期並みの売上収益となる予想です。
- 小型プリンターは需要回復が遅れているために、減収となりますが、商業・産業IJPの完成品ビジネスでは、コーポレート・CAD向け、サインージ、テキスタイル、ラベル向けなどを中心に増収を見込み、ヘッド外販ビジネスでも市場回復による増収を見込んでいます。
- 下期のセグメント利益は、為替のマイナス影響を受けますが、プリンター事業で増益を見込むため、セグメント全体で増益を予想しています。
- なお、通期のセグメント利益に占めるプリンター事業の割合は、7割半ば程度となります。

(億円)

ビジュアルコミュニケーション	2019年度 実績	2020年度 7/31予想	2020年度 今回予想	対前期	対 7/31予想
売上収益	1,833	1,340	1,390	-443	+50
セグメント利益	135	-50	-20	-155	+30
セグメント利益率	7.4%	-3.7%	-1.4%		

◆ プロジェクターの販売動向
(社内管理値に基づく指標)

	FY19 実績	FY20 7/31予想	FY20 今回予想
YoY伸長率	-9%	-31%	-30%
販売数量 約、万台	240	160	160

◆ ビジュアルコミュニケーション

- ◆ プロジェクター
 - ・COVID-19影響に加え、FPD影響により市場縮小 (YoY▲35%程度)
 - ・市場でのプレゼンス向上を進める

(億円)

ウェアラブル・産業プロダクツ	2019年度 実績	2020年度 7/31予想	2020年度 今回予想	対前期	対 7/31予想
売上収益	1,529	1,400	1,400	-129	-
ウェアラブル機器	440	310	290	-150	-20
ロボティクスソリューションズ	212	220	240	+27	+20
マイクロデバイス他	929	900	890	-39	-10
事業間売上収益	-53	-30	-20	+33	+10
セグメント利益	18	20	20	+1	-
セグメント利益率	1.2%	1.4%	1.4%		

◆ ウェアラブル機器

- ・ウオッチで厳しい事業環境が継続

◆ ロボティクスソリューションズ

- ・中国中心に堅調な需要が続く

◆ マイクロデバイス他

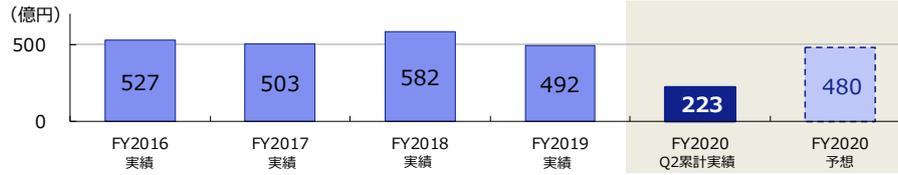
- ・堅調な需要が続く

24

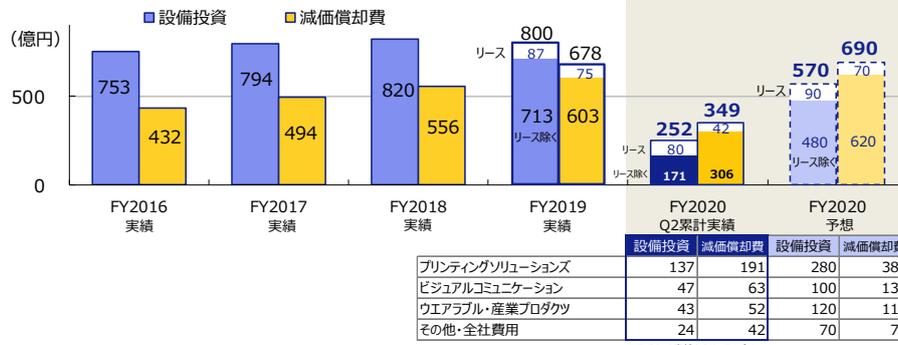
- ビジュアルコミュニケーション、および、ウェアラブル・産業プロダクツの予想はご覧の通りです。
- ビジュアルコミュニケーションも、第2四半期の実績が予想を上回ったことを反映して、通期予想を上方修正しましたが、下期においては、前回予想から大きな変更はありません。
- ウェアラブル・産業プロダクツは、セグメント全体では予想を据え置きますが、事業ごとの予想を修正しています。
- ウェアラブル機器は、ウオッチ市場の回復遅れを反映しました。
- ロボティクスソリューションズは、第2四半期の結果を反映し通期予想を上方修正しましたが、企業の投資意欲が減退しており、回復時期が見通せないことから、前回予想から大きな変化を見込んでいません。
- マイクロデバイス他は、水晶デバイスや半導体の前提に大きな変更はありません。

主要費用・設備投資

研究開発費



設備投資・減価償却費



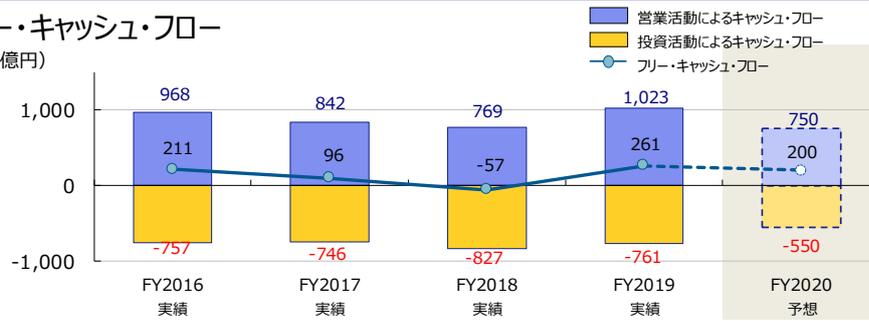
	設備投資	減価償却費	設備投資	減価償却費
プリンティングソリューションズ	137	191	280	380
ビジュアルコミュニケーション	47	63	100	130
ウェアラブル・産業プロダクト	43	52	120	110
その他・全社費用	24	42	70	70

FY2019実績からリースを含む

- 研究開発費、および設備投資、減価償却費の予想に変更はありません。
- 設備投資は、前年度から大幅な減少を見込みます。

フリー・キャッシュ・フロー/主な経営指標

フリー・キャッシュ・フロー (億円)



主な経営指標

(%)	FY2016 実績	FY2017 実績	FY2018 実績	FY2019 実績	FY2020 予想
ROS *1	6.4	6.8	6.5	3.9	3.6
ROA *2	6.9	7.4	6.8	3.9	3.3
ROE *3	10.1	8.3	10.2	1.5	1.6

*1 ROS: 売上収益事業利益率 = 事業利益 / 売上収益

*2 ROA: 資産合計事業利益率 = 事業利益 / 期首・期末資産合計平均

*3 ROE: 親会社所有者帰属持分当期利益率 = 親会社の所有者に帰属する当期利益 / 期首・期末親会社の所有者に帰属する持分平均

- フリー・キャッシュ・フローおよび主な経営指標の予想になります。
- 前回予想に対して、営業キャッシュフローの予想を上方修正し、フリー・キャッシュ・フローは、200億円を予想します。

- ご説明のポイント
- 第2期四半期実績
- 2020年度通期業績予想
- 株主還元
- ESGトピックス

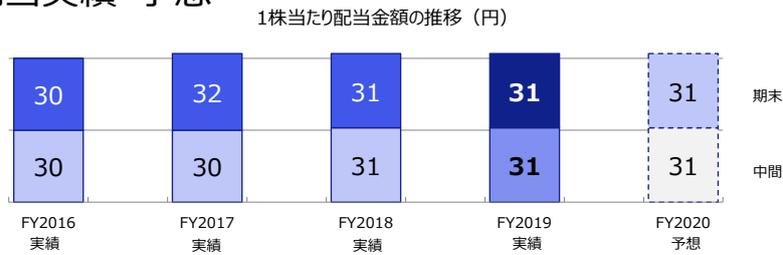
■ 配当の基本方針

- 強固な財務構造の構築と、積極的な利益還元と並行して取り組む
- 中期的には連結配当性向40%程度を目標

■ 2020年度配当予想

- 2019年度と同額の1株当たり62円

■ 配当実績・予想



- 続きまして、株主還元についてです。
- 予想に変更はありません。
- 2020年度の配当は、前年度と同額の、1株当たり62円の予想です。

- ご説明のポイント
- 第2期四半期実績
- 2020年度通期業績予想
- 株主還元
- ESGトピックス

■ 統合レポート発行

- 「価値創造ストーリー」に基づく経営・事業戦略、具体的な活動内容を紹介



■ TCFDへの対応

- 気候関連リスク・機会がエプソンの戦略に与える財務影響度を評価
- 脱炭素社会への移行は、事業拡大の機会
 - マテリアリティである「産業構造の革新」「循環型経済の牽引」に合致



■ EcoVadis社のサステナビリティ評価で最高位の「プラチナ」*を獲得

- 業種別評価対象企業の上位1%に入る高い評価
- グローバルな「企業の社会的責任（CSR）」の取り組みが認められた



*「プラチナ」の格付けは2020年に新設されたランク

30

- 10月に統合レポートを発行しました。
- 「価値創造ストーリー」に基づく経営・事業戦略、具体的な活動内容を紹介しておりますので、ぜひご覧ください。
- 特に、投資家の皆さまとの対話を重視し、TCFDのフレームワークに基づくシナリオ分析を実施し、開示しました。
- 気候関連リスク・機会がエプソンの戦略に与える財務影響度を評価した結果、脱炭素社会への取り組みは、エプソンの強みである低環境負荷の商品・サービスにおいて、エプソンが設定したマテリアリティである「産業構造の革新」「循環型経済の牽引」に合致し、事業拡大の機会があると確認しました。
- 最後になりますが、エプソンは、EcoVadis社のサステナビリティ評価で最高位の「プラチナ」を獲得しました。
- 昨年までは「ゴールド」という高い評価を3年連続で獲得してきましたが、さらに上位の評価を受けたことは、サステナビリティを重要な経営戦略と捉えているエプソンにとって、大変価値があり、名誉なことです。
- ウェブサイトでは、統合レポートや、価値創造に向けた具体的な取り組みを開示していますので、そちらをご覧ください。
- 今後も、社会課題の解決を通じて、SDGsに掲げられた持続可能な社会の実現に貢献してまいります。
- 以上



補足資料

2020年度 第2四半期累計実績 | ハイライト

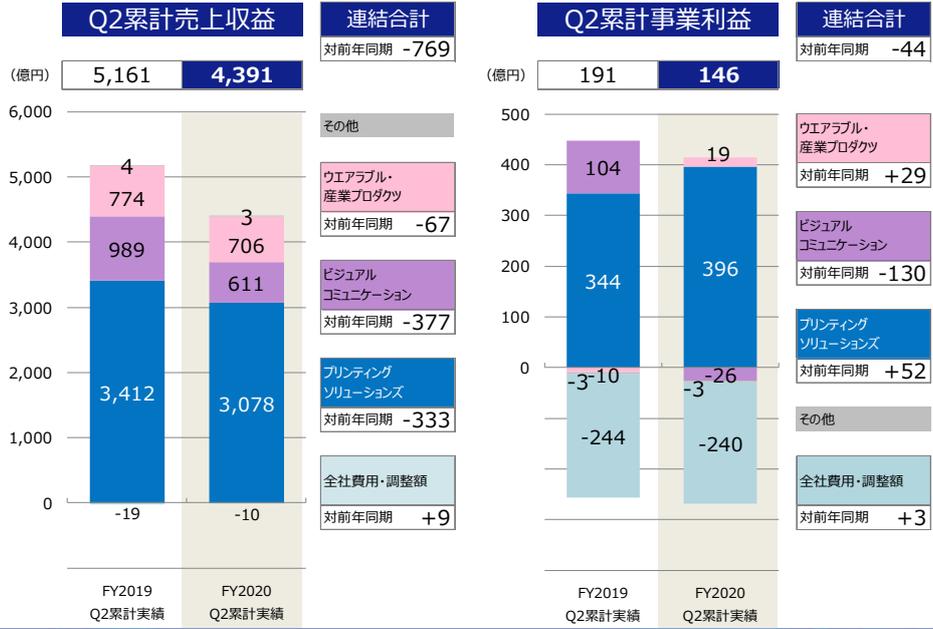
EPSON
EXCEED YOUR VISION

	2019年度		2020年度		対前年同期		
	(億円)	Q2累計実績	%	Q2累計実績	%	増減額	増減率
売上収益		5,161		4,391	-769	-14.9%	
事業利益		191	3.7%	146	-44	-23.4%	
営業利益		193	3.7%	92	-100	-52.0%	
税引前利益		191	3.7%	69	-121	-63.5%	
親会社の所有者に帰属する 四半期利益		122	2.4%	42	-80	-65.5%	
EPS ^{*1} (円)		35.14		12.23			
為替レート (円、指数)	USD	¥108.62		¥106.85			
	EUR	¥121.44		¥121.24			
	その他通貨 ^{*2}	100		91			
		前年同期に対する 為替影響額 (億円)		USD	EUR	その他 通貨合計	合計
		売上収益		-23	+0	-76	-99
		事業利益		+3	+0	-43	-39

*1 EPS: 基本的1株当たり当期利益

*2 その他通貨の各レートを為替ボリュームに応じて
加重平均した値について、前年同期を100とした指数

2020年度 第2四半期累計 | 事業セグメント別



(億円)

プリンティングソリューションズ	2019年度 Q2累計	2020年度 Q2累計	対 前年同期	為替 影響額
売上収益	3,412	3,078	-333	-82
プリンター	2,280	2,245	-35	
構成比 オフィス・ホームIJP	83%	86%		
SIDM	8%	6%		
その他	9%	8%		
プロフェッショナルプリンティング	990	759	-230	
構成比 商業・産業IJP	63%	67%		
小型プリンター他	37%	33%		
その他	141	74	-67	
事業間売上収益	-0	-0	+0	
セグメント利益	344	396	+52	-37
セグメント利益率	10.1%	12.9%		

(億円)

ビジュアルコミュニケーション	2019年度 Q2累計	2020年度 Q2累計	対 前年同期	為替 影響額
売上収益	989	611	-377	-9
セグメント利益	104	-26	-130	-1
セグメント利益率	10.6%	-4.3%		

(億円)

ウェアラブル・産業プロダクト	2019年度 Q2累計	2020年度 Q2累計	対 前年同期	為替 影響額
売上収益	774	706	-67	-7
ウェアラブル機器	229	130	-99	
ロボティクスソリューションズ	101	143	+42	
マイクロデバイス他	473	442	-30	
事業間売上収益	-29	-9	+19	
セグメント利益	-10	19	+29	-1
セグメント利益率	-1.3%	2.8%		

主要製品の販売動向

本資料は、エプソン内部の管理値に基づく指標です。伸長率はYoY

*1 オフィス共有IJP：高プリントボリュームオフィス向けプリンター
I/Cモデル、RIPS、LJの本体・インク。スマートチャージなどの課金や有償サービスを含む

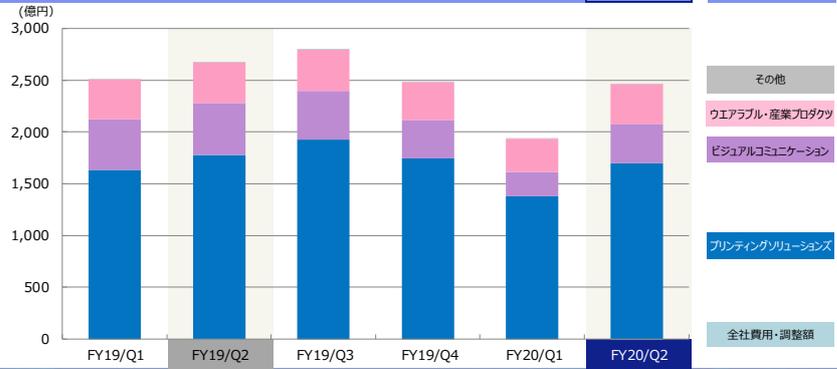
*2 FY20の商品区分変更に伴い、FY19を遡及修正

				FY2019 通期 実績	FY2020 Q1 実績	FY2020 Q2 実績	FY2020 通期 予想
			USD	108.74	107.54	106.16	106.00
			EUR	120.85	118.39	124.10	122.00
プリンティング ソリューションズ	オフィス・ホーム IJP 本体	売上収益（円貨）	伸長率	-0%	-14%	+2%	+5%
		売上収益（現地通貨）	伸長率	+4%	-8%	+5%	-
		本体数量	伸長率	+1%	-17%	-9%	-4%
		本体数量	台数	約1,570万台	-	-	約1,500万台
		内 大容量インクタンクモデル	台数	約1,000万台	-	-	約1,000万台
		内 SOHO・ホーム向け I/Cモデル	台数	約530万台	-	-	約470万台
		内 オフィス共有IJP	台数	約40万台	-	-	約30万台
	オフィス・ホーム IJP インク	インク売上収益比率 インク÷(本体+インク)	構成比	48%	-	-	47%
		売上収益（円貨）	伸長率	-8%	+15%	+7%	+2%
		売上収益（現地通貨）	伸長率	-5%	+19%	+8%	-
	オフィス共有 IJP*1 本体+インク	オフィス・ホームIJP内 売上収益比率*2	構成比	10%	9%	10%	10%
	SIDM 本体	売上収益（円貨）	伸長率	-19%	-43%	-16%	-18%
		売上収益（現地通貨）	伸長率	-16%	-40%	-15%	-
		本体数量	伸長率	-16%	-39%	-16%	-17%
ビジュアル コミュニケーション	プロジェクター 本体	売上収益（円貨）	伸長率	-9%	-52%	-24%	-24%
		売上収益（現地通貨）	伸長率	-6%	-50%	-24%	-
		本体数量	伸長率	-9%	-57%	-32%	-30%
		本体数量	台数	約240万台	-	-	約160万台

四半期 売上収益推移 | 事業セグメント別



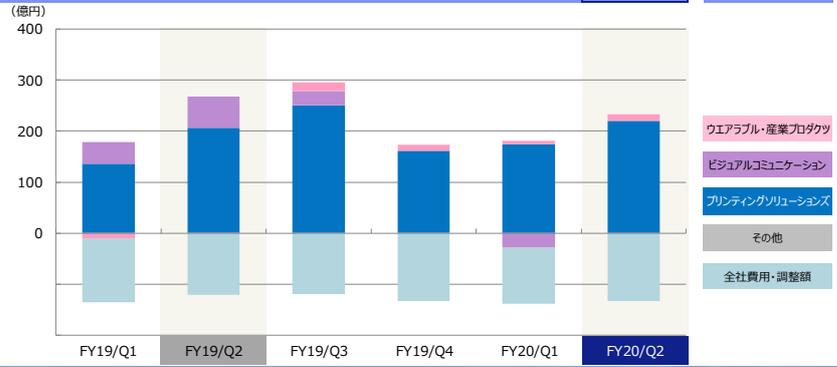
為替レート (円)	USD	109.93	107.31	108.72	109.00	107.54	106.16	-1.15
	EUR	123.54	119.34	120.35	120.18	118.39	124.10	+4.76
売上収益 (億円)	FY19/Q1	FY19/Q2	FY19/Q3	FY19/Q4	FY20/Q1	FY20/Q2	対前年同期	
プリンティングソリューションズ	1,632	1,780	1,929	1,744	1,380	1,698	-81	
ビジュアルコミュニケーション	492	496	468	375	235	376	-120	
ウェアラブル・産業プロダクト	381	393	394	360	318	388	-4	
その他	2	2	2	2	1	2	-0	
全社費用・調整額	-11	-7	3	-6	-3	-6	+1	
連結合計	2,496	2,664	2,798	2,476	1,932	2,459	-205	



四半期 事業利益推移 | 事業セグメント別



為替レート (円)	USD	109.93	107.31	108.72	109.00	107.54	106.16	-1.15
	EUR	123.54	119.34	120.35	120.18	118.39	124.10	+4.76
事業利益 (億円)	FY19/Q1	FY19/Q2	FY19/Q3	FY19/Q4	FY20/Q1	FY20/Q2	対前年同期	
プリンティングソリューションズ	136	207	250	162	175	220	+13	
ビジュアルコミュニケーション	43	61	29	0	-27	1	-59	
ウェアラブル・産業プロダクト	-10	-0	17	11	6	12	+13	
その他	-2	-1	-1	-0	-2	-1	+0	
全社費用・調整額	-123	-120	-118	-133	-109	-131	-10	
連結合計	45	146	176	40	43	102	-43	



海外売上収益・従業員数

海外売上収益

為替レート (円)	USD	109.93	107.31	108.72	109.00	107.54	106.16	-1.15
	EUR	123.54	119.34	120.35	120.18	118.39	124.10	+4.76

売上収益 (億円)	FY19/Q1	FY19/Q2	FY19/Q3	FY19/Q4	FY20/Q1	FY20/Q2	対前年同期
米州	745	717	712	753	598	719	+2
欧州	479	537	593	529	397	500	-36
アジア・オセアニア	725	758	744	585	495	739	-19
海外売上収益計	1,951	2,014	2,051	1,869	1,490	1,959	-54
連結合計	2,496	2,664	2,798	2,476	1,932	2,459	-205

構成比	FY19/Q1	FY19/Q2	FY19/Q3	FY19/Q4	FY20/Q1	FY20/Q2
米州	29.9%	26.9%	25.5%	30.4%	31.0%	29.3%
欧州	19.2%	20.2%	21.2%	21.4%	20.6%	20.4%
アジア・オセアニア	29.1%	28.5%	26.6%	23.7%	25.6%	30.1%
海外売上収益計	78.2%	75.6%	73.3%	75.5%	77.2%	79.7%

従業員数

期末従業員数 (人)	2018/3末	2018/9末	2019/3末	2019/9末	2020/3末	2020/9末	対前期末
国内	19,436	19,694	19,456	19,825	19,558	19,723	+165
海外	56,955	61,699	57,191	58,914	56,050	59,287	+3,237
連結合計	76,391	81,393	76,647	78,739	75,608	79,010	+3,402

主な業績指標

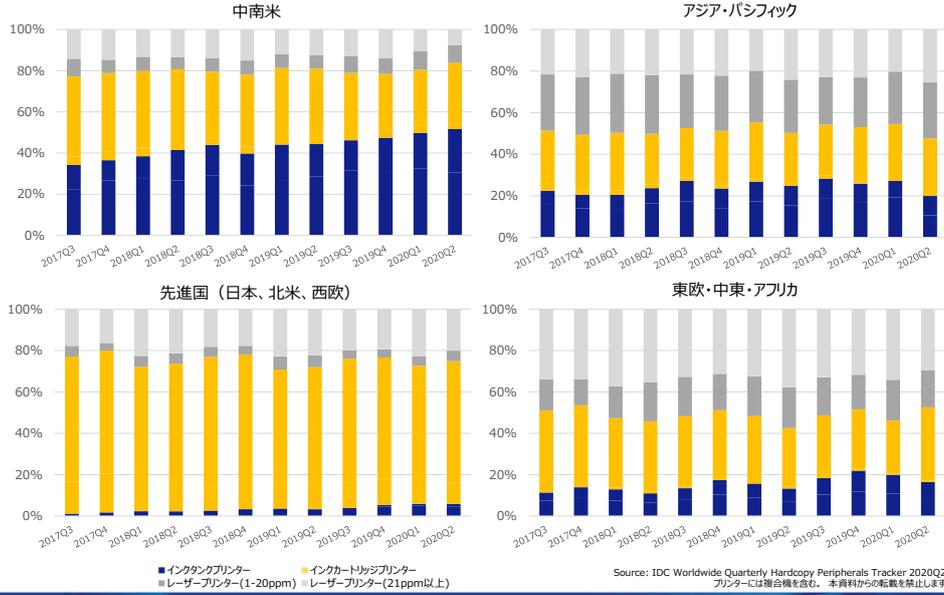


(億円)						(億円)				
	項目	FY2018 実績	FY2019 実績	FY2020 予想	FY2021 第2期中計目標	項目	FY2018 実績	FY2019 実績	FY2020 予想	Epson 25 第2期3年累計 目標
為替レート	USD	110.86	108.74	106.00	110.00	USD	110.86	108.74	106.00	110.00
(円)	EUR	128.40	120.85	122.00	125.00	EUR	128.40	120.85	122.00	125.00
プリンティング	売上収益	7,236	7,086	6,800	7,800	営業CF	769	1,023	750	3,700程度
ソリューションズ	セグメント利益	945	756	840	-	FCF	-57	261	200	1,700程度
ビジュアル	売上収益	2,033	1,833	1,390	2,250					
コミュニケーション	セグメント利益	212	135	-20	-	研究開発費	582	492	480	積極的に投下
ウェアラブル・	売上収益	1,634	1,529	1,400	1,950	設備投資	820	713	480	2,000程度
産業プロダクツ	セグメント利益	55	18	20	-			800*	570*	
その他	売上収益	9	9	10	-					*オペレーティングリース含む
	セグメント利益	-5	-5	-10	-					
全社・調整額	売上収益	-16	-22	0	-					
	セグメント利益	-502	-496	-480	-					
連結合計	売上収益	10,896	10,436	9,600	12,000					
	事業利益	704	408	350	960					
	ROS	6.5%	3.9%	3.6%	8%					
	ROE	10.2%	1.5%	1.6%	継続的に 10%以上					

大容量インクタンクモデルの浸透（数量構成比）



A4サイズプリンタータイプ別市場推移（暦年）



Color Control Technology	商業・産業印刷における色再現性を高めるカラーマネジメント技術
Epson Connect	エプソンの商品・サービスを対象としたモバイル・クラウドサービス
I/C	Ink Cartridge, インクカートリッジ
IJP	Inkjet Printer, インクジェットプリンター
LIJ	Line Inkjet Printer, 高速ラインインクジェット複合機
LP	Laser Printer, レーザープリンター（複合機含む）
RIPS	Replaceable Ink Pack System, 大容量インクパックモデル
SIDM	Serial Impact Dot Matrix Printers
SOHO	Small Office Home Office, 小規模オフィス・ホームオフィス
オフィス共有IJP	商品カテゴリの1つ。高プリントボリュームオフィス向けプリンター。I/Cモデル,RIPS,LIJを含む
フォト	フォト、グラフィックス、ブルーフ、CAD印刷向け大判プリンターなどが含まれる
商業・産業IJP	商品カテゴリの1つ。商業・産業用途向け大判インクジェットプリンター、プリントヘッド外販ビジネスを含む
大容量インクタンクモデル	エコタンク搭載インクジェットプリンター
大容量インクモデル	大容量インクカートリッジモデル、大容量インクタンクモデル、大容量インクパックモデル（RIPS）、高速ラインインクジェット（LIJ）の総称
分散印刷	同一内容の印刷物を複数のプリンターを用いて印刷する方法
3LCD	プロジェクター方式の1つ。液晶パネル3枚を使う方式
FPD	Flat Panel Display, フラットパネルディスプレイ
OLED	Organic Light Emitting Diode（有機EL）
高光束プロジェクター	交換レンズ機能付き高輝度プロジェクター
WP	ウェアラブル機器事業
MD他	マイクロデバイス他事業

イノベーション	インクジェットイノベーション	ビジュアルイノベーション	ウェアラブルイノベーション	ロボティクスイノベーション		
セグメント	プリンティングソリューションズ	ビジュアルコミュニケーション	ウェアラブル・産業プロダクト			
事業・主要製品	プリンター		プロシキター	ウェアラブル機器	ロボティクスソリューションズ	マイクロデバイス他
	オフィス・ホームIJP [大容量インクタンクモデル] [SOHO・ホーム] インカードリッジモデル [オフィス共有] 大容量インクパックモデル(RIPS) 高速ラインインクジェット複合機(LI) オフィス向けインカードリッジモデル	シ IDM PaperLab スキャナー レーザープリンター	エpsonブランド 高光束 超短焦点 スタンダード ホーム 小型 ライティング スマートグラス	エpsonブランド TRUME オリент ムーブメント セイコービジネス オプション	ロボット スカフ 6軸 ICハンドラー	水晶 半導体 微細合金粉末 表面処理加工
	プロフェッショナルプリンティング					
	商業・産業IJP [小型プリンター他]					
	フォト サイネージ テキスタイル ラベル ヘッド外観					
	PC他					
	エpsonダイレクトPC					

EPSON
EXCEED YOUR VISION